

産衛だより

平成 24 年度事業報告

1. 総会を平成 24 年 5 月 30 日に名古屋市において開催した。
2. 理事会を 4 回 (4 月 14 日, 6 月 30 日, 9 月 1 日, 12 月 22 日), 臨時理事会 (メール審議) を 1 回開催した。
3. 機関誌「産業衛生学雑誌」及び「Journal of Occupational Health」(第 54 巻: 和文 6 冊, 英文 6 冊, 学会号 1 冊) を発行した。
4. 第 85 回日本産業衛生学会を, 平成 24 年 5 月 30 日~6 月 2 日に名古屋市で開催した。(東海地方会担当, 小林章雄 企画運営委員長)
5. 第 22 回産業医・産業看護全国協議会を, 平成 24 年 11 月 22~25 日に東京都で開催した。(関東地方会・産業医部会・産業看護部会・産業歯科保健部会担当, 福本正勝企画運営委員長)
6. 第 21 回産業衛生技術部会大会を, 平成 24 年 11 月 23 日に第 22 回産業医・産業看護全国協議会と合同開催した。
7. 9 地方会活動 (北海道, 東北, 関東, 北陸甲信越, 東海, 近畿, 中国, 四国, 九州) を行った。
8. 4 部会活動 (産業医部会, 産業看護部会, 産業衛生技術部会, 産業歯科保健部会) を行った。
9. 7 常設委員会活動を行った。1 非常設委員会活動を行った。1 ワーキンググループ活動を行い, 1 ワーキンググループを設置した。
 - (1) 編集委員会 (2) 許容濃度等に関する委員会 (3) 生涯教育委員会 (4) 労働衛生関連政策法制度検討委員会 (5) 専門医制度委員会 (6) 表彰制度に基づく選考委員会 (7) 倫理審査委員会 (8) 震災関連石綿・粉じん等対策委員会 (非常設) (9) COI に関するワーキンググループ (10) 産業看護職専門制度検討ワーキンググループ
10. 31 研究会活動を行った。
 - (1) 産業疲労研究会 (2) 振動障害研究会 (3) 職業性呼吸器疾患研究会 (4) 中小企業安全衛生研究会 (5) 産業中毒・生物学的モニタリング研究会 (6) 産業精神衛生研究会 (7) 放射線原子力保健研究会 (8) 作業関連性運動器障害研究会 (9) アレルギー・免疫毒性研究会 (10) 労働衛生史研究会 (11) VDT 作業研究会 (12) 健康教育・ヘルスプロモーション研究会 (13) アルコール問題研究会 (14) 職域身体活動研究会 (15) 産業神経・行動研究会 (16) 温熱環境研究会 (17) 労働衛生国際協力研究会 (18) 就労女性健康研究会 (19) 産業疫学研究会 (20) 産業保健情報・政策研究会 (21) 産業保健マーケティング研究会 (22) 職域における睡眠呼吸障害研究会 (23) 職域における喫煙対策研究会 (24) 医療従事者のための産業保健研究会 (25) 産業栄養研究会 (26) エイジマネジメント研究会 (27) 産業心理技術研究会 (28) 非正規雇用研究会 (29) 騒音障害防止研究会 (30) 交通における安全と産業衛生の研究会 (31) 大学・研究機関に

おける安全衛生管理研究会

11. 学会賞 1 名, 奨励賞 1 名, 功労賞 1 名に授与した。
12. 学会の発展に長年に亘る多大な功績のあった会員を顕彰するために学会栄誉賞を創設し, 1 名に授与した。
13. 専門医制度について, 指導医及び専門医の更新手続きと専門医資格認定試験を行った。専攻医制度について, 専攻医資格認定試験を行った。研修施設認定を行った。平成 24 年 12 月末現在, 専門医 195 名が登録された。平成 25 年 1 月末現在, 指導医 305 名, 専攻医 69 名, 研修登録医は 281 名である。
14. 産業看護師は, 平成 25 年 1 月現在 1,659 名が登録された。
15. アジア産業保健学会 (ACOH) 2014 年大会の開催に向けての準備を行った。また, 国際協力の一環として, 国際学会開催の援助およびアジアを中心とした学会誌の無償配布を行った。
16. 11 の学協会の開催について, 協賛・後援した。
17. 新公益法人への移行の準備, 申請を行った。
18. 役員改選を行った。
19. 厚生労働省定例監査 (10 月 26 日) に対応した。

第 85 回日本産業衛生学会の開催について

(企画運営委員長: 小林章雄)

第 85 回日本産業衛生学会は東海地方会が担当し, 平成 24 年 5 月 30 日~6 月 2 日の 4 日間, 名古屋国際会議場で行われた。今回のテーマは震災から 1 年を経過し, 復興に向けての歩みが進む中, 働く人々が希望を持ちつつ, 健康な労働と生活を送るのをサポートするという産業保健関係者の課題を見つめようという意味を込めたものである。

特別講演には地元名古屋大学特別教授で 2008 年ノーベル物理学賞受賞者の益川先生をお招きし, 現代社会の課題に科学がいかに関わり, 貢献するのかを語っていただいた。一方, 学会のテーマを深めるための基調講演, メインシンポジウムでは各方面の専門家から働く人々をめぐる様々な問題とその解決に向けての展望が示され, 活発な討論が行われた。

シンポジウムは東海地方会で組織した企画運営委員会が企画したものとともに, 産業保健の主要課題について継続的な研究を続けている研究会関係者が企画したものを合わせて行ったほか, 2 つのパネルディスカッション, 受賞講演, 教育講演, 市民公開講座, 地域交流集会と盛りだくさんの企画を立てた。

一方, 一般演題は第 84 回と同様, 原則としてポスター発表として, 口演に適した内容のもの 80 題を選抜し, 口頭発表を行った。

主な企画は以下の通りである。

特別講演「現代社会と科学」益川敏英 (名古屋大学特別教授)
特別講演 (学会賞受賞記念)

「スクリーニングにおける職業性呼吸器疾患の胸部画像」

日下幸則 (福井大学教授)

特別講演 (奨励賞受賞記念)

「医療機関における産業保健活動の現状と今後の展望」

和田耕治 (北里大学講師)

基調講演「労働と生活の新しいかたち」

宮本太郎 (北海道大学大学院教授)

メインシンポジウム「希望に満ちた労働と生活への構想」

教育講演 1「室内空気環境と労働者の健康」

大森豊緑 (名古屋大学大学院教授)

教育講演 2「海外赴任者の健康管理」

安川隆子 (安川内科クリニック)

シンポジウム 1「メンタルヘルス不調者の労災認定と民事訴訟の現状と対策」

シンポジウム 2「大震災から産業保健が学ぶもの」

シンポジウム 3「節電時代の夏期オフィス温熱環境の課題と対策」

シンポジウム 4「ナノマテリアルと労働環境衛生」

シンポジウム 5「メンタルヘルス対策としての良質な睡眠への新たなストラテジー」

シンポジウム 6「医師が健康に働き続けるための職場の課題と対策～日本医師会・勤務医の健康支援に関するプロジェクト委員会の取り組みから」

シンポジウム 7「電離放射線のリスク評価」

シンポジウム 8「産業化学物質による神経毒性評価—最新の動物実験のヒトにおける毒性評価への応用と可能性—」

シンポジウム 9「産業保健と自殺予防—自殺総合対策大綱の改定をめぐって」

シンポジウム 10「労働安全衛生法改正に伴う職場の喫煙対策」
パネルディスカッション 1

「新たな産業保健の担い手となりうるか? 外部専門機関の理想と現実」

パネルディスカッション 2

「日本産業衛生学会の利益相反マネージメントを考える」

市民公開シンポジウム

「看護師が健康に働き続けるための職場の課題と対策」

地域交流集会

「職場におけるメンタルヘルス—地元労働組合・専門職の取り組み—」

長年の慣習を破り、今学会では特別研修会の開催を見送った。また、大都市名古屋での開催であることもあり、事務局として参加者のホテルのお世話をすることもしなかった。参加・出題費の支払いは従来行われていた郵便振替を行わず、カード決済とした。いずれの措置も事務局の負担を減らすためであったが、学会運営に大きな支障を来すことはなかった。

一般演題は 498 題、学会の有料参加者は 3,017 人であった。機器展示・書籍展示していただいたのはそれぞれ 44 社、12 団体、共催セミナーを開催していただいたのは 11 社、協賛金は 17 団体からいただいた。

第 22 回日本産業衛生学会産業医・
産業看護全国協議会

(企画運営委員長: 福本正勝)

去る平成 24 年 11 月 22 日 (木) から 11 月 25 日 (日) までの 5 日間、第 22 回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会が東京工科大学・蒲田キャンパスにて開催された。

2011 年 3 月 11 日の震災の影響は甚大であり、企業における産業衛生にも影響が及んでいる。復興のために、企業・労働者にかかる負荷の大きさは想像を絶するものがあり、心身へも少なからず影響が出ている状況が多く報告されている。また、企業は今、メンタルヘルス対策、海外勤務者への対策、新型インフルエンザ対策など BCP (事業継続) や危機管理に関わる多くの課題が課せられている。それぞれの課題も産業衛生と不可分であると考え、今回のテーマを、「産業保健と危機管理～どう備え、どう動くか～」とし、内容を準備させていただいた。

以下に主な企画の演題のみ報告する。各会場とも参加者の活発で熱心な討論が見られ実務に生かせる意義ある協議会となったと確信している。

- ① メインシンポジウム 危機管理と産業保健
「震災を振り返る」
- ② 特別講演
「「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙飛行、その 7 年間の歩み」 JAXA 川口淳一郎教授
- ③ 基調講演「これからの職場のメンタルヘルス対策の方向性」
- ④ シンポジウム 1「企業における危機管理」
- ⑤ シンポジウム 2「新しいメンタルヘルス対策」
- ⑥ シンポジウム 3「海外勤務者の健康危機管理
～トラバククリニックの活用～」
- ⑦ 4 部会合同セミナー
「職場巡視・ワークショップ・プレゼンテーション;
計測機器製造と歯科技工製造現場における作業姿勢・
作業環境」
- ⑧ ポスター展示 (52 題)
- ⑨ リレーワークショップ
「産業保健における連携 (3) —医療機関との連携—」
- ⑩ 実地研修
日本郵政株式会社郵便事業会社新東京支店
東日本旅客鉄道株式会社 東京総合車両センター
全日本空輸株式会社健康管理センター及び訓練センター
株式会社朝日プリンテック築地工場
大田区京浜島など中小企業
- ⑪ 産業看護部会企画
(特別研修会「現場での気づきや疑問を研究につなげるための手順と留意点」、シンポジウム「国際交流のあゆみと展望」)
- ⑫ 市民公開講座「発達障害の予防・治療・就労支援について」
その他、研究会、ランチョンセミナー (4 題)、産業部会による特別研修会が行われた。また、専門医認定証授与式が開催され、専門医があらたに誕生された。今後のご活躍に期待したい。

今回、特徴的なことは、第 21 回産業衛生技術部会大会などが併催されたこと、また、労務学会、日本渡航医学会、海外勤務者健康管理全国協議会との合同企画が催されたことである。関係各位に感謝申し上げる。今後、良い形での連携が続くことを期待したい。

産業医部会主催の研修会、市民公開講座を含めて、1,000 人超のご参加をいただいた。懇親会にも多くのご参加をいた

き、恒例のポスター賞の表彰式も行われた。多くのご参加をいただきました。改めて御礼申し上げます。

なお、来年度は大同特殊鋼 星崎診療所所長齊藤政彦学会理事を企画運営委員長、三菱重工株式会社 大江西健康管理科 科部長石川浩二先生を運営実行委員長として、9 月に名古屋にて開催されます。また、名古屋の地で元気な出合いができることを祈念いたしましてご報告とさせていただきます。

第 21 回日本産業ストレス学会のご案内

第 21 回日本産業ストレス学会を大会メインテーマ「震災と産業ストレス～新たな歩み～」とし、下記の日程で開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

開催概要

会 期：平成 25 年 11 月 15 日（金）～16 日（土）（研修会：17 日）
 会 場：仙台市情報・産業プラザ（アエル）
 〒 980-6105 仙台市青葉区中央 1-3-1（仙台駅西口 3 分）TEL：022-724-1200
 会 長：広瀬 俊雄（仙台錦町診療所・産業医学センター 所長）
 副会長：黒澤 一（東北大学環境・安全推進センター／同大学院医学系研究科産業医学分野 教授）
 大会ホームページ：<http://www.doh.med.tohoku.ac.jp/jajsr21>

プログラム

【会長講演】

「産業医・産業保健活動からみた震災と産業ストレス」
 仙台錦町診療所・産業医学センター 所長 広瀬俊雄

【特別講演】

「東日本大震災後の東京電力福島第一・第二原子力発電所における産業保健活動について」
 愛媛大学大学院医学系研究科 公衆衛生・健康医学分野 教授 谷川 武

【教育講演】

「働きやすく働きがいのある人と組織づくりの最前線」
 本田技研工業株式会社 人事部・安全衛生管理センター 小林由佳
 「健理学のすすめ」
 首都大学東京 都市環境科学研究科 都市システム科学域 教授 星 旦二

【シンポジウム】

シンポジウム 1：「ストレス回避行動への支援」
 シンポジウム 2：「今、求められる産業保健職の連携」
 その他、【一般演題】【ランチョンセミナー】

学会参加費

学会員：6,000 円（事前 5,000 円）、非学会員：8,000 円（事前 6,000 円）、学生：3,000 円（事前 2,000 円）
 懇親会：11 月 15 日（金）18：00～ホテルメトロポリタン仙台
 会費 5,000 円（事前） 6,000 円（当日）

認定単位

* 日本医師会認定産業医制度研修会 生涯研修単位申請中
 * 産業看護継続教育実力アップコース単位申請中

運営事務局

東北大学大学院医学系研究科産業医学分野
 〒 980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1
 TEL：022-717-7874 FAX：022-717-7883
 E-mail：sangyo-stress21@doh.med.tohoku.ac.jp